

ごあいさつ

公益社団法人 茨城県作業療法士会
会長 大場 耕一



新たな年度を迎えるにあたり、県士会を代表して一言ご挨拶を申し上げます。

平成が終わり、新たな時代が幕を開けようとしています。平成という時代をネガティブにとらえる向きもありますが、我々 作業療法士会にとっては「誕生」「成長」、そして「変革」の刻であったと考えております。

組織化から30余年、その間 会員数の増加や制度改正に則した法人格の再考を実践されてきた諸先輩方、そして関係機関各位のおかげもあり、現在 公益社団法人という重責を担う組織として歩んでおります。行政との強固な連携構築はもとより、中央協会との相互関係の改革も進んでおります。今後も為すべきことをしっかりと意識したうえで、県民目線での組織運営を果たしてまいりたいと思います。

さて今年度の幕開けは、何といたっても診療報酬、介護報酬、障害福祉サービス等報酬の「トリプル改定」となりました。改定内容の核心部分には、作業療法に対するこれまでの実績への評価、そして期待が込められております。これからも、その期待を裏切ることなく、職能団体として明確な進路を示してまいります。また、地域包括ケアシステムの完成年度となる2025年に向けた事業も、しっかりと成熟させていかなければなりません。医療計画および介護保険事業計画などの見直しを基盤とした事業全体の刷新への契機を迎えるなかで、地方分権による後退を起こさないための政策を意識しながら、職能団体としての立ち位置を明確化したうえでの覚悟を持って参画してまいります。

リハビリテーション専門職の職能団体としては、養成校指定規則の見直しを受けて、全国一律の制度としての臨床実習の在り方を県内養成校と共に協議しながら、臨床現場への混乱を来すことなく、学生教育の一端を担っていかなければなりません。特に各養成校の強みを活かしながら、実習に臨む学生への教育格差が生まれることのないよう対応してまいります。

“質を問われるリハビリテーションの実践者”を下支えする団体として、リハビリテーション医療全体の底上げを図るとともに、多職種間連携・領域間連携を果たし、作業療法の認知度向上と、作業療法士の活躍の場の創出に、全力で取り組んでまいります。

新たな時代におきましても、県民の皆様方にとって、ますます飛躍の年となりますよう祈念いたしまして、あいさついたします。